

「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.4 令和4年10月17日発行 発行 探究科設置準備委員会

前号に引き続き、「事業の目的等」（後半）を掲載します。今回は、本校に学際領域学科を設置する必要性、取組の目的・目標に関する内容です。新学科設置の必要性や、新学科の教育を通じて育成を目指す生徒の資質・能力について、共有していただきたいと思います。

1 学際領域学科を設置する必要性

- ・釧路湖陵高校は、難関大学への進学希望者の進路実現、地域医療人材や科学技術系人材の育成、トップリーダー・イノベーターの育成を地域から期待されており、学際領域に関する学科を設置し、総合的な探究の時間の単位の増加、探究に関する学校設定科目の開設、発展的な内容を取り扱う学校設定科目の開設、コンソーシアムとの連携のもと多様な実践的・体験的学習など、従来の普通科と比較して、より高度な探究的な学びを実践することで、地域の期待にこたえることができる。
- ・コンソーシアムとの連携・協働により、大学等、国際的な活動を行う機関、地域の関係機関など様々な人材と交流することで、グローバルな視点とローカルな視点の両面から社会に貢献することができるトップリーダー・イノベーター人材を育成することができる。
- ・コンソーシアムの構築により得られる地域の諸課題へのアプローチのためには、従来の文系・理系を超えた学際的、横断的な組織が不可欠である。
- ・釧路湖陵高校における、これらの生きた学びの研究・実践は、北海道内外を牽引する人材の育成やそれに先立つ目的意識を持った進学に寄与するものであり、このような取組は、道内はもちろんのこと全国のモデルケースとなるものである。
- ・新たな学科の設置により、探究的な学びを深めることができ、生徒の多様な能力・適性、興味・関心等に応じた学びが実現し、現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成が期待される。

2 学際領域学科における取組の目的・目標

- (1) 現代的な諸課題のうち、SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる、複合的かつ分野横断的で、地域社会・国家・国際社会という枠組みも超えるようなボーダーレスな課題に着目し、将来の国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する知識及び技能の習得
- (2) 習得した知識及び技能の活用に関わる思考力、判断力、表現力等の育成
- (3) 自己の在り方生き方と国際社会及び日本社会のつながりを考えながら、社会の持続的な発展に関わり、豊かな人生を切りひらくための学びに向かう力、人間性等の涵養